

— 私たちの志と地域貢献 —



宮城県気仙沼向洋高等学校

明治34年開校 創立119周年

平成6年に現在の校名へ (旧気仙沼水産高校)

情報海洋科 産業経済科 機械技術科 の3学科

平成23年3月 東日本大震災で校舎被災
平成30年8月 新校舎完成

旧校舎は「東日本大震災遺構・伝承館」

○●機械技術科●○

モノづくり, ヒトづくり

地域主催のイベントで、子ども対象の「ものづくり体験」を実施。普段は教えてもらう側だが、今回は教える側へ。最初は緊張して上手く教えることができなかったが、工夫を重ね、モノづくりの楽しさや、完成した時の達成感を感じてもらうことができた。



モノをつくるのが、人と人との交流にも繋がり、自身の役割を果たすことによって自己有用感を高めた。

○●防災教育●○

有志生徒による向洋語り部クラブ
「KSC」Koyo Storyteller Club

語り継ぐ“使命”

昨年、旧校舎が「東日本大震災遺構・伝承館」が開館。今年度から生徒による語り部団体を発足し、先輩たちが学んだ旧校舎である伝承館と連携した語り部（館内ガイド）活動をスタートさせた。震災の記憶と教訓を伝え、震災を語り継ぐ活動をしている。



防災意識や防災対応能力、表現力等の育成、地元階上地区や気仙沼市の活性化に繋がった。

社会での役割を「はたす」

○●産業経済科●○

気仙沼では古くから魚の粕漬けや郷土料理の「あざら」などに酒粕を使い、食品の長期保存などに活用してきた。



地元食文化 (酒粕) + 商品開発 (スイーツ) = 魅力ある気仙沼 (シンボル・復興)



平成27年から地元酒造の酒粕を使った「酒粕ミルクスイーツ」の商品開発に取り組み、地元の菓子店のご協力のもと、9種類が商品化された。

①企業講話



②アイデア発想



③アイデア試作



④アイデア発表会



⑤テスト販売



⑥商品化発表会



— 取り組みの流れ —

さまざまな世代の枠を越えた繋がりを持ち、地元の良さを理解することで、新たな価値を生み出し、自己理解や他者理解を深化させた。

○●情報海洋科●○

1年次の4月下旬に類型選択実施。
海洋類型、情報電子類型のいずれかを選択。

～海洋類型～

水産・海運業を担う人材育成

気仙沼市は古くから沖合・遠洋漁業の根拠地として栄え、現在も生鮮カツオ水揚げ24年連続日本一である。本校は前進の気仙沼水産高校時代から、地元基幹産業を支えている船舶職員を数多く輩出してきた。

乗船実習では、学校で学んだ知識を実際に現場で体験し、実習を通して船舶職員の職業について考え、よりよい生き方を求めた。



2年次に、海洋総合実習船「宮城丸」で乗船実習(45日間)を実施している。

～情報電子類型～

時代の対応変化にした人材育成

通信・電子・情報に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、高度情報化社会に対応できる人材を育成している。

国家資格である総合無線通信士や陸上無線技術士、電気通信工事担任者等の資格取得を目指す。資格を生かした情報通信技術関連企業や電気電子分野の製造職等に就職するために、授業や実習に日々励んでいる。



難易度の高い国家資格にも挑戦し、高い合格実績を誇っている。

人と「かかわる」

よりよい生き方を「もとめる」